

令和 7年 8月 18日

宍粟市議会議長 様

会派の名称 無会派

派遣代表者氏名 緒 方 加 奈

調査研究報告書

下記のとおり、行政視察・研修会等に参加しましたので、宍粟市議会政務活動費の使途に関する要領第6(7)の規定により報告します。

記

調査事項又は研究研修内容	「令和7年度 第2回 市町村長等・議会議員特別セミナー」	
実施日	令和 7年7月28日 から 令和 7年7月29日まで 2日間	
調査地又は開催地	オンライン研修	
派遣議員氏名 (派遣代表者以外)	㊞	㊞
	㊞	㊞
	㊞	㊞
	㊞	㊞
旅費等	¥ <u>2,165</u> (内訳) (1)旅 費 _____ 円 (2)参加者負担金 <u>2,000</u> 円 (3)そ の 他 <u>165</u> 円 (振込手数料)	
備考		

【添付書類】 調査表、旅費内訳書、行程表のほかに実施が確認できる書類
(対応者の名刺・視察写真・講演会内容のパンフレット等

会派代表者印

緒

政務活動報告書

研修名 令和7年度「第2回市町村等・議会議員特別セミナー」

講師・講座

- ① 真の意味での持続可能な都市を目指して
神戸市長 久元喜造氏
- ② 地域の魅力を引き出す文学の力
文芸評論家 三宅香帆氏 小説家 宮島未奈氏
- ③ 明日を生きるために～人文知を地域に生かす～近世国学から学ぶ
國學院大學神道文化学部教授 松本久史
- ④ みんながやりたい場所をつくる廃校利活用施設『いいかね Pallete』の運営
について 株式会社 B00K 代表取締役会長 樋口聖典氏

全体を通しての所感

4つの講義を通して市町村の未来を考える多角的な視点を学ぶことができた。一見すると内容は多岐にわたっていたが、通底していたのは「地域をいかに持続可能な形で守り、次の世代へとつなげていくか」という大きな問いであったと感じている。

第1講義の「持続可能な都市を目指して」では、人口減少や財政の制約が厳しくなる中で、地域をどう維持していくかという現実的な課題が示された。単に施設や道路を整備するだけではなく、長期的な視野で資源を活用し、環境と調和させるまちづくりが求められる。特に林業や農業といった自然資源の活用が重要であり、宍粟市にとっても大きな課題である。

第2講義「地域の魅力を引き出す文学の力」では、地域の物語や文化が持つ力に注目した。文学や物語を通して地域を語ることは、住民の誇りを育て、外に向けた発信にもつながる。宍粟にも播磨風土記やたたら製鉄、森林鉄道など多くの歴史文化があり、それを活かして次世代に伝えていくことが大切だと改めて感じた。

第3講義「明日を生きるために一人文知から学ぶ」では、歴史や思想を振り返ることの大切さを学んだ。近世の思想や文化の背景を知ることは、現代社会の課題を解決するヒントになる。地域の歴史や文化を掘り起こし、そこから学ぶ姿勢は、自分のまちづくりにも直結すると感じた。

第4講義「みんなやりたい場所をつくる廃校利活用」では、人口減少に伴って増える廃校をどう活かすかが示された。福岡県田川市の事例「いいかねパレット」は印象的であった。ここは「みんながやりたいことを実現できる場所」をコンセプトにした廃校利活用施設で、音楽スタジオやシェアオフィス、地域交流の拠点

として多様な世代が集う場となっている。廃校という「余白」を単なる空き施設ではなく、新しい挑戦を生み出す拠点に変える発想は、地域の未来に大きな可能性を広げるものである。宍粟市でも、使われなくなった学校施設を子ども食堂や企業支援の場、地域産業の発信拠点などに活かすことで、まさに新しい活力を生み出せると感じた。

全体を通じて、今回のセミナーは「歴史に学び、市民と共に考え、持続可能性を意識し、文化で魅力を発信する」という一連の流れを示していたように思う。これらは宍粟市の抱える課題にも直結しており、私自身の議員活動の指針とする学びであった。今後は、単に課題解決を目指すのではなく、市民が誇りを持ち、安心して暮らせる地域づくりを進めていきたい。

令和 8年 2月 6日

宍粟市議会議長 様

会派の名称 無 会 派

派遣代表者氏名 緒 方 加 奈



調査研究報告書

下記のとおり、行政視察・研修会等に参加しましたので、宍粟市議会政務活動費の使途に関する要領第6(7)の規定により報告します。

記

調査事項又は研究研修内容	自治体病院関連質問で地域医療を守る特別研修	
実施日	令和8年 1月 26日 から 令和8年 1月 26日まで 1日間	
調査地又は開催地	京都 JA ビル 京都府京都市南区東九条西山王町1	
派遣議員氏名 (派遣代表者以外)	印	印
	印	印
	印	印
	印	印
旅費等	¥ <u>36,450</u> (内訳) (1)旅 費 <u>6,120</u> 円 (2)参加者負担金 <u>30,000</u> 円 (3)そ の 他 <u>330</u> 円 (振込手数料)	
備考		

【添付書類】調査表、旅費内訳書、行程表のほかに実施が確認できる書類
(対応者の名刺・視察写真・講演会内容のパンフレット等)

会派代表者印



政務活動 報告書

研修名 自治体病院関連質問で地域医療を守る特別研修

研修場所 京都 JA ビル

講師 伊関友伸(城西大学経営学科教授)

1. 研修参加の目的

自治体病院を取り巻く経営環境が厳しさを増す中、地方財政との関係や病院経営の現状把握の視点を学び、今後の議会活動における審議や提言に活かすことを目的として本研修に参加した。

2. 研修内容

午前の研修では、「自治体病院と地方財政の基礎」として、病院収支と地域医療費の関係、繰入金と地方交付税制度の仕組み、病院事業に係る地方交付税措置の最新動向について説明があった。あわせて、病院の統合再編を進める際に必要となる財政的視点や、高騰する建設費への対応、ローコスト建築による費用抑制手法について、具体的な事例を交えて学んだ。

午後の研修では、「参加自治体病院の現状把握」として、病院財務の基本的な見方、地方公営企業年鑑の活用方法、手持ち現金や一時借り入れ管理の重要性について学習した。また病床利用率や診療単価、医師給与・手当の状況、初期研修医のマッチング状況など、病院経営と人材確保・働き方改革が密接に関係していることが示された。

3. 研修を通しての所感

本研修を通じて、自治体病院は医療提供機関であると同時に、地方財政や地方医療体制と深く結びついた存在であることを再認識した。特に、繰入金や地方交付税措置については、制度の理解だけでなく、適切な判断と運用が自治体の将来に大きな影響を及ぼすことを強く感じた。

また、病院経営の数値の背景には、医師や職員の働き方や人材確保の課題があり、財政面と人の問題を一体的に捉える必要性を認識した。

4. 今後の活用について

今回の研修で得た知見を踏まえ、自治体病院の経営状況や財政支援のあり方について、議会における審議の質の向上に努めていきたい。あわせて、地方医療を持続的に守るため、病院経営の見える化や将来を見据えた体制整備についても、引き続き検討を深めていく。

令和 8年 2月 8日

宍粟市議会議長 様

会派の名称 無 会 派
派遣代表者氏名 緒 方 加 奈



調査研究報告書

下記のとおり、行政視察・研修会等に参加しましたので、宍粟市議会政務活動費の使途に関する要領第6(7)の規定により報告します。

記

調査事項又は研究研修内容	議員には見えない福祉行政の裏側	
実施日	令和8年 2月 8日 から 令和8年 2月 8日まで 1日間	
調査地又は開催地	京都 JA ビル 京都府京都市南区東九条西山王町1	
派遣議員氏名 (派遣代表者以外)	①	①
	②	②
	③	③
	④	④
旅費等	¥ <u>33,650</u> 円 (内訳) (1)旅 費 <u>3,650</u> 円 (2)参加者負担金 <u>30,000</u> 円 (3)そ の 他 _____ 円 ()	
備考		

【添付書類】 調査表、旅費内訳書、行程表のほかに実施が確認できる書類
(対応者の名刺・視察写真・講演会内容のパフレット等)

会派代表者印



政務活動 報告書

研修名 元職員が明かす、議員には見えない福祉行政の裏側

研修場所 JA 京都ビル

講師 柴田知成(元寝屋川市職員)

1. 研修参加の目的

地域福祉や介護保険、地域包括ケアに関する施策について、制度面だけでなく、役所内部の意思決定や現場運用の実態を理解し、議会における質問や政策提言の質を高めることを目的として本研修に参加した。

2. 研修内容

午前の研修では、「役所の中から見た地域福祉のリアル」として、行政内部の意思決定プロセスや、担当課と現場職員の考え方の違い、住民要望が制度に反映されるまでの過程について説明があった。

また、議会質問が職員に与える影響や、その効果と限界、議員が確認すべき資料や質問のタイミングについて具体的な事例をもとに解説がなされ、議会と行政の関係性を見直す重要な視点を得ることができた。

午後の研修では、「介護保険と地域包括ケアを動かす仕組み」として、介護保険制度における給付と負担の考え方、地域包括支援センターの役割と現場の課題、医療・介護・福祉の連携を阻む縦割り構造の問題点について学んだ。

さらに、予算要求から事業実施に至るまでの流れや、議員が押さえるべき制度の仕組みと現場の実情について説明があり、制度と実施の間に生じるギャップでの理解を深めた。

3. 研修を通しての所感

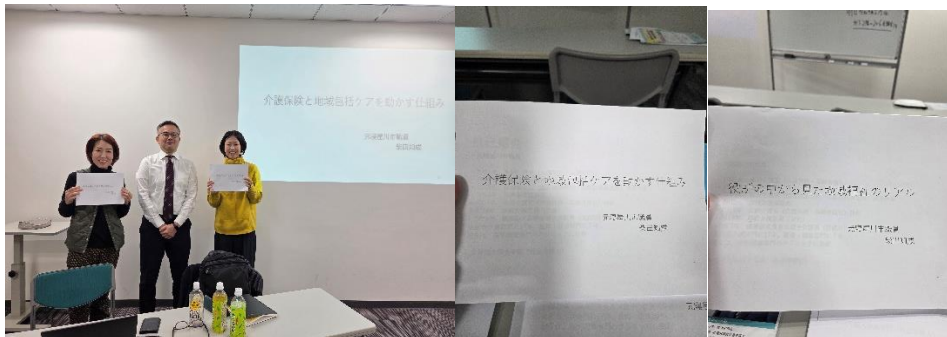
本研修を通じて、福祉行政を考える上では、まず制度の仕組みや成り立ちを正しく理解することが出発点であると認識した。制度全体像を把握した上でこそ、現場の課題や運用上の論手についても、的確に捉えることができると感じた。特に、議会質問は「指摘すること」だけでなく、行政内部の動きを促す役割を持つ一方で、その限界も踏まえた上で行う必要があると感じた。

また、介護保険や地域包括ケアは、医療・福祉・介護の連携が不可欠であり、縦割り構造を前提とした制度運用の中で、現場が抱える困難さを理解することの重要性を強く感じた。

4. 今後の活用について

今回の研修で得た知見を踏まえ、福祉施策や介護保険事業について、制度と現場の双方を意識した視点で議会における審議や質問に取り組んでいきたい。あわせて、地域包括ケアの

推進に向け、行政と現場、議会と役所をつなぐ役割を果たせるよう、より実効性のある提言につなげていく。



令和 8年 2月 9日

宍粟市議会議長 様

会派の名称 無 会 派
派遣代表者氏名 緒 方 加 奈



調査研究報告書

下記のとおり、行政視察・研修会等に参加しましたので、宍粟市議会政務活動費の使途に関する要領第6(7)の規定により報告します。

記

調査事項又は研究研修内容	公共施設特別講座	
実施日	令和8年 2月 9日 から 令和8年 2月 9日まで 1日間	
調査地又は開催地	京都 JA ビル 京都府京都市南区東九条西山王町1	
派遣議員氏名 (派遣代表者以外)	印	印
	印	印
	印	印
	印	印
旅費等	¥ <u>34,750</u> 円 (内訳) (1)旅 費 <u>4,750</u> 円 (2)参加者負担金 <u>30,000</u> 円 (3)そ の 他 _____ 円 ()	
備考		

【添付書類】 調査表、旅費内訳書、行程表のほかに実施が確認できる書類
(対応者の名刺・視察写真・講演会内容のパンフレット等)

会派代表者印



政務活動 報告書

研修名 公共施設特別講座

研修場所 JA 京都ビル

講師 森 裕之(立命館大学政策科学学科教授)

1. 研修参加の目的

人口減少や少子高齢化が進む中、自治体が保有する公共施設の老朽化や更新費用、学校統廃合を含む施設の再編は避けて通れない課題である。本研修では、公共施設問題の基礎的な考え方や、学校統廃合をめぐる現実的な課題について理解を深め、今後の議会での審議や検討に活かすことを目的として参加した。

2. 研修内容

午前中の研修では、「公共施設問題の基礎」として、自治体が保有する公共施設全体を把握することの重要性や、施設の長寿命化と老朽化問題、各地における公共施設マネジメントの事例について学んだ。

特に、施設単体ではなく、自治体全体として公共施設を捉え、自らのまちの老朽化状況を客観的に把握する必要性についての説明があり、今後の検討における基本的な視点を得ることができた。

午後の研修では、「学校統廃合と公共施設問題」として、学校施設の老朽化や、人口減少による児童生徒数の減少と施設配置の問題について学習した。

また、公共施設の中でも学校施設が占める割合の大きさや、学校統廃合を進める上で避けて通れない地域との調整や合意形成の難しさについて、具体的な事例をもとに説明がなされた。

3. 研修を通しての所感

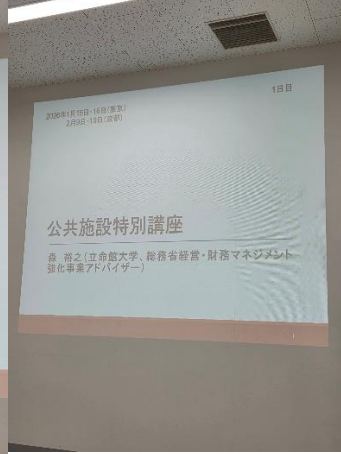
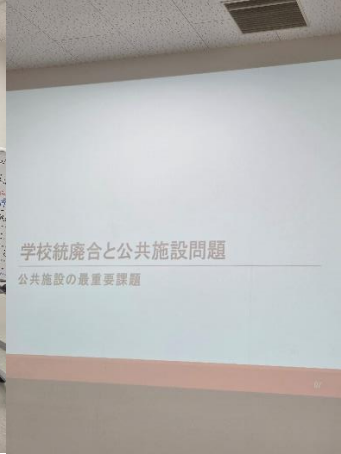
本研修を通じて、公共施設問題を考える上では、まず自治体が抱える施設の現状や制度的な枠組みを正しく理解することが出発点であると感じた。

公共施設や学校統廃合は感情的な議論になりやすいテーマであるが、施設の老朽化や将来的な更新費用といった現実を把握した上で、冷静に議論する必要性を改めて認識した。

4. 今後の活用について

今回の研修で得た知見を踏まえ、公共施設の老朽化対策や学校施設のあり方について、基礎的なデータや制度を理解した上で、議会における審議に臨んでいきたい。

あわせて、地域の実績を踏まえながら、将来世代への負担も見据えた持続可能な公共施設のあり方について、検討を深めていく。



令和 8年 2月 11日

宍粟市議会議長 様

会派の名称 無 会 派
派遣代表者氏名 緒 方 加 奈



調査研究報告書

下記のとおり、行政視察・研修会等に参加しましたので、宍粟市議会政務活動費の用途に関する要領第6(7)の規定により報告します。

記

調査事項又は研究研修内容	地方財政セミナー	
実施日	令和8年 2月 11日 から 令和8年 2月 11日まで 1日間	
調査地又は開催地	大阪駅前第4ビル 大阪府大阪市北区梅田1丁目11-4	
派遣議員氏名 (派遣代表者以外)	印	印
	印	印
	印	印
	印	印
旅費等	￥ <u>31,050</u> 円 (内訳) (1)旅 費 <u>6,050</u> 円 (2)参加者負担金 <u>25,000</u> 円 (3)そ の 他 _____円 ()	
備考		

【添付書類】調査表、旅費内訳書、行程表のほかに実施が確認できる書類
(対応者の名刺・視察写真・講演会内容のパンフレット等)

会派代表者印



政務活動 報告書

研修名 地方財政セミナー

研修場所 大阪駅前第4ビル

講師 村山祥栄(瀬戸内市副市長、前京都市会議員)

1. 研修参加の目的

人口減少や社会保障費の増大などにより、地方財政を取り巻く環境が厳しさを増す中、自治体が安定した財政運営を行っていくためには、歳入確保と歳出の見直しを両立させる視点が不可欠である。本研修では、地方財政の基本的な仕組みを理解するとともに、議員の立場から関わることのできる具体的な視点を学び、今後の議会活動に活かすことを目的として参加した。

2. 研修内容

午前の研修では、「地方議員のための歳入増加実施策」として、コロナ後の地方財政の現状や、ふるさと納税の最新動向と成功事例、法定外税の活用に関する実務上の考え方について学んだ。

あわせて、地方交付税の仕組みや、人口減少時代における財政運営の考え方、公有地や公共施設を活用して収益を生み出す視点、議員が提案できる歳入確保策について説明があった。

午後の研修では、「持続可能な歳出削減策」として、夕張市の財政破綻の事例をもとに、財政再建の現実や、歳出削減における基本的な考え方について学習した。

特に、歳出削減は単なる削減ではなく、事業の見直しや優先順位の整理から始まること、行政改革や無駄のチェック、官民連携の活用、人件費や給与費の理解など、議会として押さえるべき視点が示された。

3. 研修を通しての所感

本研修と通じて、地方財政を考える上では、まず制度の仕組みや数字の意味を正しく理解することが出発点であると感じた。歳入増加や歳出削減といった言葉だけが先行しがちであるが、その背景にある制度や実務を理解した上でなければ、現実的な議論や提案にはつながらないと認識した。

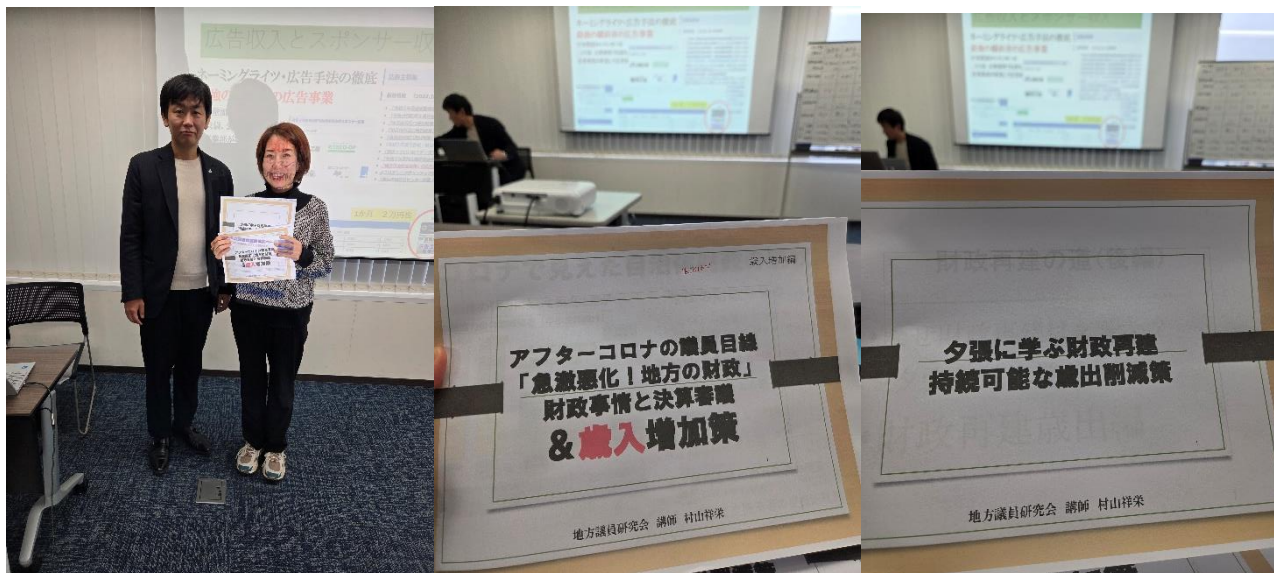
また、将来世代への負担を減らすためには、短期的な対策だけではなく、中長期的な視点で財政運営を考える必要があると感じた。

4. 今後の活用について

今回の研修で得た知見を踏まえ、地方財政の基本的な仕組みへの理解をさらに深めた上で、

議会における審議や提案に取り組んでいきたい。

あわせて、公共施設の活用や事業の見直しなど、歳出のあり方についても、将来を見据えた視点で検討を進めていく。



令和 8年 2月 12日

宍粟市議会議長 様

会派の名称 無 会 派
派遣代表者氏名 緒 方 加 奈



調査研究報告書

下記のとおり、行政視察・研修会等に参加しましたので、宍粟市議会政務活動費の使途に関する要領第6(7)の規定により報告します。

記

調査事項又は研究研修内容	人口減少時代の議員活動スキルアップ研修	
実施日	令和8年 2月 12日 から 令和8年 2月 12日まで 1日間	
調査地又は開催地	大阪駅前第4ビル 大阪府大阪市北区梅田1丁目11-4	
派遣議員氏名 (派遣代表者以外)	①	①
	②	②
	③	③
	④	④
旅費等	¥ <u>36,380</u> 円 (内訳) (1)旅 費 <u>6,380</u> 円 (2)参加者負担金 <u>30,000</u> 円 (3)そ の 他 _____ 円 ()	
備考		

【添付書類】調査表、旅費内訳書、行程表のほかに実施が確認できる書類
(対応者の名刺・視察写真・講演会内容のパンフレット等)

会派代表者印



政務活動 報告書

研修名 人口減少時代の議員活動スキルアップ研修

研修場所 大阪駅前第4ビル

講師 吉田康人(和泉市前副市長、元高槻市議会議員)

1. 研修参加の目的

人口減少が進む中、自治体を取り巻く環境は大きく変化しており、議員にはこれまで以上に実効性のある質問や提案が求められている。本研修では、議会質問の基本的な考え方や、人口減少時代における自治体経営の視点について理解を深め、今後の議会活動に活かすことを目的として参加した。

2. 研修内容

午前の研修では、「効果的な質問の作り方」として、議員の質問が行政にどのような影響を与えるのか、役所と議会の関係性を踏まえた質問の重要性について説明があった。

特に、質問の意図や目的を明確にすることの重要性や、質問の前後における議員の行動が政策に影響を与える可能性があること、形式的な質問に終わらせないための視点について具体例を交えて学んだ。

午後の研修では、「人口減少時代の自治体経営」として、和泉市や高槻市での取組み事例をもとに、職員採用の見直しや人事制度改革、住民ニーズの把握手法などについて説明があった。

また、人口減少時代においては、従来の行政運営の考え方にとらわれず、地域の実情に応じた施策を検討していく必要性や、議員が果たす役割について示された。

3. 研修を通しての所感

本研修を通じて、議会質問は単に現状を確認するだけでなく、今後の方向性を考えるきっかけとなる重要な役割を持つものであると感じた。

そのためには、制度や行政の仕組みを理解した上で質問に臨むことが重要であり、議員として基礎的な理解を積み重ねていく必要性を改めて認識した。

また、人口減少時代においては、限られた資源の中で持続可能な自治体運営を考えていくことが求められており、議員として長期的な視点をもって議論に関わることの重要性を感じた。

3. 今後の活用について

今回の研修で得た知見を踏まえ、制度や施策の理解を深めた上で、議会質問や提案に取り組んでいきたい。

また、人口減少時代における自治体の課題を意識しながら、地域の実情に即した持続可能

なまちづくりに向け、議会活動に努めていく。

